

【家庭科】

1 今年度の研究について

(1) 教科で取り組んだ授業改善

ア 「主体的・対話的で深い学び」に向けての取組

家庭科の家族、食生活、衣生活、保育、高齢者など各分野において、少人数のグループでの話し合いを多く取り入れた。例えば、遺産相続についてやPFCバランスについてなど生徒が自分の意見を伝え、他の人の考えを聞くことで、理解を深めることができたと感じている。

イ ICTを活用した授業の取組

座学において、プリント学習を行っている。そのプリントに沿ったパワーポイントを作成し、活用している。板書の時間が短縮され、説明の時間を増やせるので、より深い知識の話ができた。

ウ 今年度の取組の成果と課題

パワーポイントでの授業展開を継続していきたい。また、ロイロノートを活用して、提出物の確認や動画など、視聴覚を使った授業内容を行い、授業時間を有効に活用していきたい。

(2) 観点別評価の検討について

知識・技能は、主に定期考査で評価し、思考・判断・表現は、定期考査や実習レポートで、主体的に学習に取り組む態度については、実習、実験への参加や取り組み、レポートの提出、作業量などで評価した。

2 来年度の研究に向けて

(1) 教科として取り組む授業改善について

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

家庭科の各分野において、例えば成年年齢について自分の考えを深め、次に、グループで身の回りの事例などを調べ、さらに世界に視野を広げて調べて、発表するなど1つのテーマを掘り下げて学習させていく。

イ ICTを有効に活用した授業の実現に向けて

パワーポイントや動画を使つての授業は、とても知識を深めるのに有効であるので継続して使用していきたい。また、ロイロノートを使用し、提出物や実験、実習動画などクラスで情報を共有して、授業で活用したい。

(2) 観点別評価の具体的方法、その後の指導への活用について

食生活では、目的を提示し、生徒に栄養価の計算をインターネットで行い、献立作成を行う。例えば、その献立を家庭で実践し、レポートを作成させる。また、動画や写真も提出させる。クラスでの発表を行う。レポートにおいては、評価規準を事前に伝えて、生徒の意欲を引き立てる。